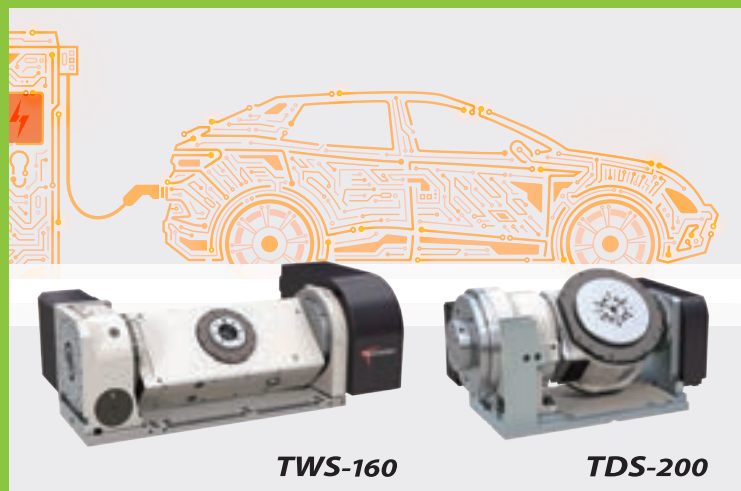
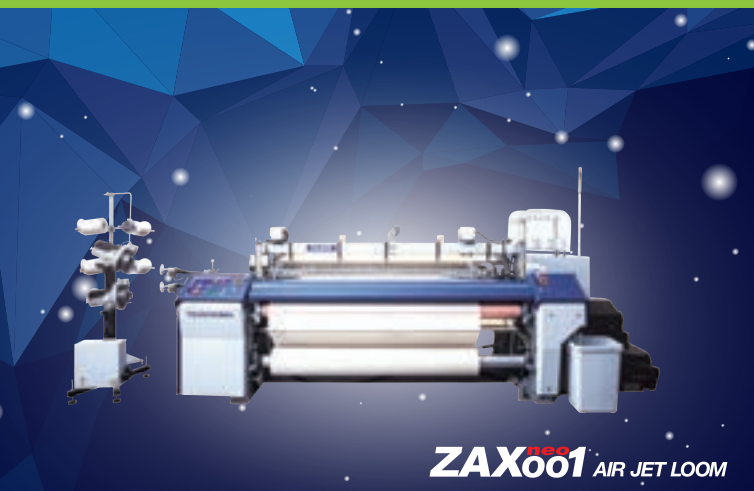


BUSINESS REPORT



株主の皆さまへ 第113期 報告書

2022年12月1日から2023年11月30日まで

津田駒工業株式会社

～最高の品質を目指し
社会に貢献する～

代表取締役会長兼社長

高納 伸宏



連結業績ハイライト

受注高 41,036 百万円 (前期37,443百万円)	経常損失 (△) △1,295 百万円 (前期△2,583百万円)
売上高 39,278 百万円 (前期31,189百万円)	親会社株主に帰属する当期純損失 (△) △1,246 百万円 (前期△2,567百万円)
営業損失 (△) △1,216 百万円 (前期△2,497百万円)	1株当たり当期純損失 (△) △195.09 円 (前期△401.87円)

(注) △印は、損失を示しています。

第113期報告書をお届けするにあたり、ひとことご挨拶を申し上げます。

この度の能登半島地震により被災された皆様に謹んでお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興を心からお祈り申し上げます。

1 第113期の業績について、お聞かせください。

当期も引き続き受注・売上の拡大に尽力してきました。その一方で、燃料や原材料価格の値上げに苦しみ、販売価格の改善、原価低減活動に注力する1年でもありました。

結果として、全体で受注高は41,036百万円（前期比9.6%増加）、売上高は、39,278百万円（前期比25.9%増加）といずれも拡大することができました。

一方損益面では、第3四半期連結会計期間より、特に繊維機械事業で価格転嫁、操業度の向上、部品納期の改善、また原価低減の効果が表れ、収益面は大幅に改善され、下期において黒字転換を果たすことができました。

ただ通期では営業損失は1,216百万円（前期 営業損失2,497百万円）、経常損失は1,295百万円（前期 経常損失2,583百万円）となりました。親会社株主に帰属する当期純損失は1,246百万円（前期親会社株主に帰属する当期純損失2,567百万円）となりました。

2 繊維機械事業、工作機械関連事業の動向を教えてください。

繊維機械事業では、新型エアジェットルームの販売促進活動を展開しました。一昨年の12月にINDIA ITME2022、昨年の6月は国際繊維機械見本市 ITMA Milan2023、11月にITMA ASIA + CITME2022に当社のエアジェットルームを出展し、高い評価をいただきました。展示会の効果もあり、期を通じインド市場を中心に多くの引合いをいただき、受注も増加しました。ウォータージェットルームは、今後の経済の回復を睨んだ中国資本の投資案件が好調に推移し、大幅な受注の増加へとつなげました。また産業資材分野への販促を強化し、エアバッグ用織機、炭素繊維用織機の受注につながりました。



多数の来客が当社小間に訪れたITMA ASIA + CITME2022

工作機械関連事業では、取り巻く環境は年間を通じ、厳しい状況が続きました。国内では自動車業界関連の設備投資意欲が低調のまま推移しました。また海外では当社主力市場の北米で、一時は自動車部品関連ユーザが投資を再開する動きがあったものの、その決定に時間を費やしており、中国では小口の投資案件が散見されましたが、内外市場ともに様子見の状況が続きました。インドやASEAN、トルコなどでは販売促進活動を強化し着実に成果を上げましたが、主力市場での落込みをカバーするまでには至りませんでした。このような状況の中、北米、ヨーロッパ、日本での展示会にて、EVに対応した新型傾斜NC円テーブルを出展し、販売促進を図りました。



多彩な機種が展示されたMECT2023

3 「中期経営計画2026」について教えてください。

2024年度から2026年度をターゲットにした、「中期経営計画2026」をスタートさせました。

最重要課題は、利益の追求とキャッシュ・フローの改善による財務基盤の立て直しです。そして継続的に利益確保ができる事業体質の構築に注力してまいります。そのため、これまでの企業風土を変えていくとともに、組織体制を見直し、活性化を進めます。また人的資本の充実を目指した人事制度改革、育成プログラムの再構築を図ります。

各事業部の活動として、繊維機械事業では将来の成長領域と位置付けている産業資材向け製品の販売を強化、新型エアジェットルームのラインナップ拡充および新型サイジングマシンの投入、エアジェットルームとウォータジェットルームのプラットフォーム化によるコストダウンを図ります。

工作機械関連事業ではNC円テーブルを中心とした既存製品の新興市場への販促展開、プラットフォーム化を活用し、更なるリードタイムの短縮の実現、子会社、他部門との協業を加速させ、お客様の需要に応えた新たな製品の市場投入を図ります。

コンポジット機械事業では、JAXA（宇宙航空研究開発機構）等との宇宙・輸送関連の燃料タンクや製造設備の共同開発を進め、TRI事業では、親和性のある工作機械関連事業との連携を強化し、更なる拡販を図ります。インフラ用FRP材料については、ICC（革新複合材料研究開発センター）との共同開発を進めてまいります。

全事業部門で原価の予実管理を徹底し、原価低減を推し進めるとともに、適正価格への改善に継続的に取り組みます。また、各部門における課題の解決や生産・業務効率の向上を進めるため、全社的にDXに取り組み、収益性の向上を図ってまいります。また、中長期的な活動として、SDGsへ向けて全社共有化を図り、活動を加速させていきます。



ジェットルームの組立ラインは高生産が続く

4 株主様へのメッセージをお願いします。

引き続き損失計上となりましたことから、誠に申し訳ありませんが、期末配当は見送りとさせていただきます。

今年度は何としても通年で黒字化しなければならない、待ったなしの状況です。このことは社員含めグループ全体の共通認識です。繰り返しになりますが、このために、津田駒再生プランと位置づけて、2026年度までの新規計画「中期経営計画2026」を立ち上げました。

既存事業の強化と新たな事業戦略を推進して、徹底して利益重視への意識改革を行い、連結営業利益、営業キャッシュ・フローを改善して、財務基盤の再生と強化を果たします。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご理解・ご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

事業別の状況

繊維機械事業

受注高	35,622	百万円 (前期比16.3%増加)
売上高	33,544	百万円 (前期比37.5%増加)
営業損失(△)	△810	百万円 (前期△2,179百万円)

工作機械関連事業

受注高	5,413	百万円 (前期比20.7%減少)
売上高	5,734	百万円 (前期比15.6%減少)
営業利益	657	百万円 (前期825百万円)

連結財務データ

連結貸借対照表 (単位：百万円)

科 目	前 期 令和4年11月30日現在	当 期 令和5年11月30日現在
資 産 の 部		
流動資産	21,648	19,793
固定資産	11,930	11,541
有形固定資産	8,396	7,779
無形固定資産	468	302
投資その他の資産	3,065	3,459
資 産 合 計	33,578	31,334
負 債 の 部		
流動負債	23,095	21,187
固定負債	7,319	8,031
負 債 合 計	30,414	29,218
純 資 産 の 部		
株主資本	2,039	793
その他の包括利益累計額	1,007	1,194
非支配株主持分	116	127
純 資 産 合 計	3,164	2,115
負債純資産合計	33,578	31,334

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結損益計算書 (単位：百万円)

科 目	前期 令和 3年12月 1日から 令和 4年11月30日まで	当期 令和 4年12月 1日から 令和 5年11月30日まで
売上高	31,189	39,278
営業損失 (△)	△2,497	△1,216
経常損失 (△)	△2,583	△1,295
税金等調整前当期純損失(△)	△2,437	△1,092
当期純損失 (△)	△2,562	△1,235
親会社株主に帰属する当期純損失 (△)	△2,567	△1,246

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

会社概要

本社所在地 〒921-8650 石川県金沢市野町5丁目18番18号
設 立 昭和14年12月30日（創業 明治42年3月）

資 本 金 123億1,654万円
従 業 員 775名

役員状況（令和6年2月末日現在）

代表取締役会長兼社長	高 納	仲 宏	TSUDAKOMA Europe s.r.l. 代表取締役、法務・コンプライアンス室担当
取 締 役	野 司		管理部門統括、輸出管理室長、ふぁみーゆツダコマ株式会社 代表取締役
取 締 役	寺 田	武 志	繊維機械事業統括、TSUDAKOMA SERVICE INDIA PRIVATE LIMITED 代表取締役、
取 締 役	大 河	哲 史	津田駒機械設備（上海）有限公司 董事長、津田駒機械製造（常熟）有限公司 董事長
取 締 役（社外）	松 原	和 弘	工作機械関連事業統括、ツダコマテクノサポート株式会社 代表取締役
取 締 役（社外）	河 村	肇 史	
常 勤 監 査 役	長 谷	博 達	
常 勤 監 査 役	若 森	雄 進	
監 査 役（社外）	澁 谷	政 隆	（カジナイロン株式会社 代表取締役社長）
監 査 役（社外）	梶 井	俊 和	製造第1部担当
執 行 役 員	浅 室	哲 也	調達部担当、生産技術部長、航空機部品推進室長
執 行 役 員	西 村	勲 志	準備機械技術部担当、コンボジット機械部長
執 行 役 員	北 川	登 志	品質保証部長
執 行 役 員	松 岡	実 行	総務部長
執 行 役 員	石 原	英 興	鋳造部長
執 行 役 員	佐 藤	文 二	繊維機械販売部担当、経営企画室担当、知財・情報管理部長
顧 問	菱 沼	捷 宏	ツダコマ・ゼネラル・サービス株式会社 代表取締役
顧 問	松 任	井 幸	株式会社 T-Tech Japan 代表取締役
顧 問	坂 大	森 一	共和電機工業株式会社 代表取締役
顧 問	越 馬	進 治	

株式の概況（令和5年11月30日現在）

株式の状況

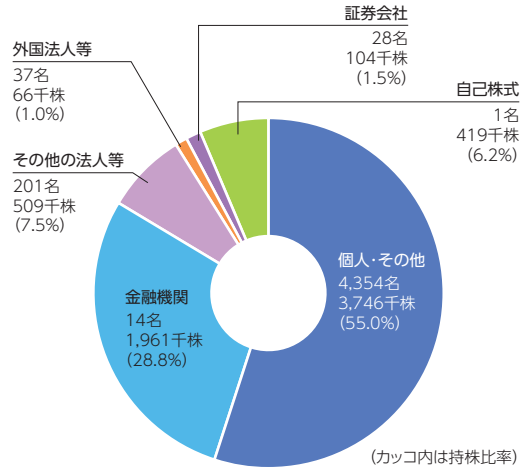
①発行可能株式総数	19,900,300株
②発行済株式の総数	6,807,555株
（内自己株式の数）	(419,530株)
③単元株式数	100株
④株主数	4,635名

大株主の状況

株 主 名	持株数（千株）
津田駒取引先持株会	1,198
株式会社日本カストディ銀行（信託口）	652
明治安田生命保険相互会社	280
株式会社北陸銀行	258
株式会社北國銀行	210
ツダコマ従業員持株会	201
東京海上日動火災保険株式会社	177
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	174
三井住友海上火災保険株式会社	142
みずほ信託銀行株式会社 退職給付信託 北陸銀行口	50
再信託受託者 株式会社日本カストディ銀行	

（注）当社の保有する自己株式419千株は上記表には含んでおりません。

株式の分布状況





株主メモ

事業年度	毎年12月1日から翌年11月30日まで
基準日	定時株主総会・期末配当 毎年11月30日 中間配当 毎年5月31日
定時株主総会	毎年2月
公告方法	当社ホームページ上に掲載
上場証券取引所	東京証券取引所（スタンダード）
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
（電話照会先）	TEL 0120-782-031（フリーダイヤル） 受付時間 9:00～17:00（土日休日を除く）

ホームページのご案内

<https://www.tsudakoma.co.jp/>

